

「地域防災支援技術パッケージ」を活用した 「地域が進める防災まちづくり」の推進

東京大学生産技術研究所
加藤孝明

こんなことで困っていませんか？

地域の防災リーダー向け

防災まちづくりのノウハウが、特定の専門家に蓄積されている。



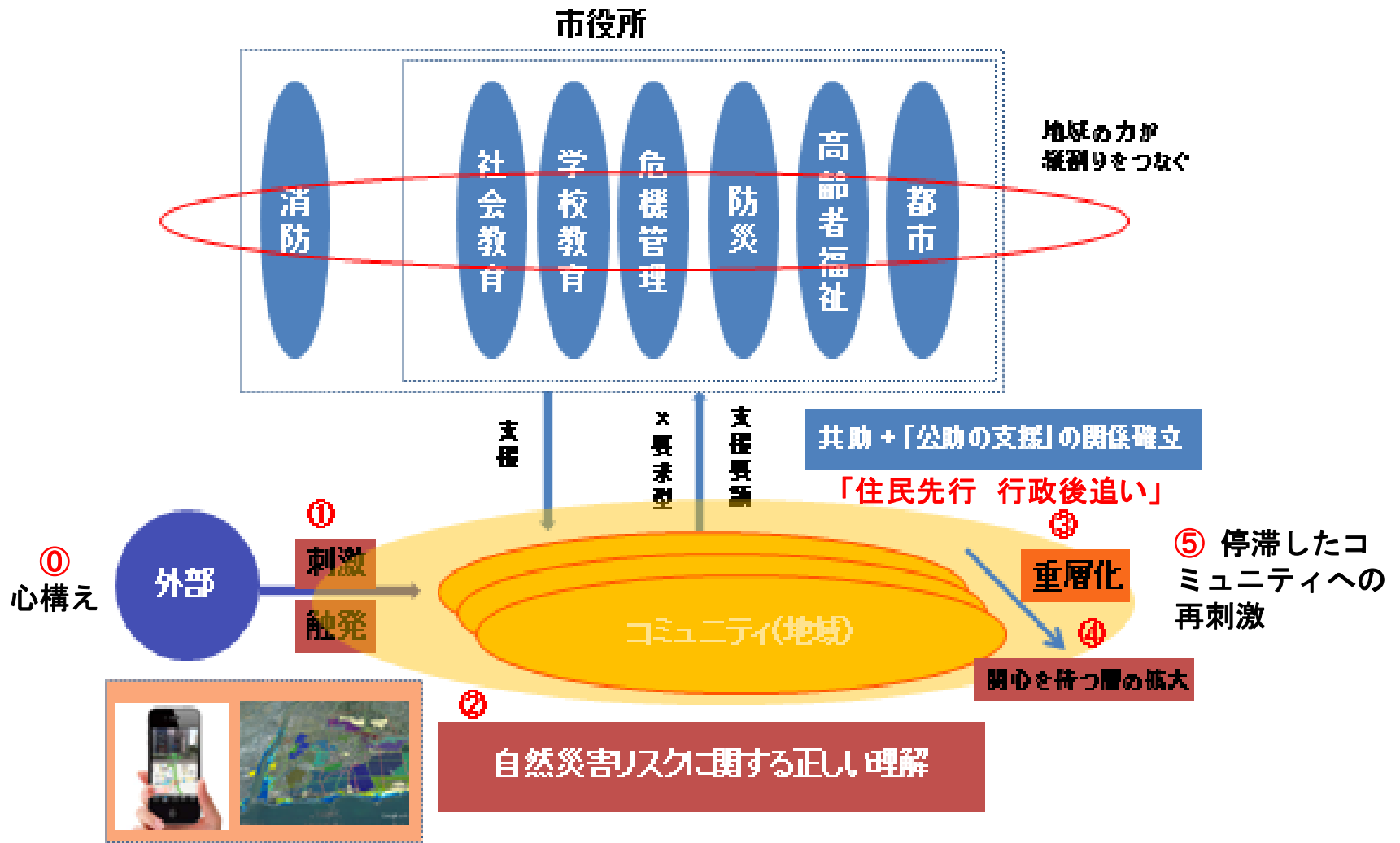
自分達は自然災害リスクを正しく認識できているのだろうか？



地域社会における自律的な防災まちづくりの取り組みが進まない。

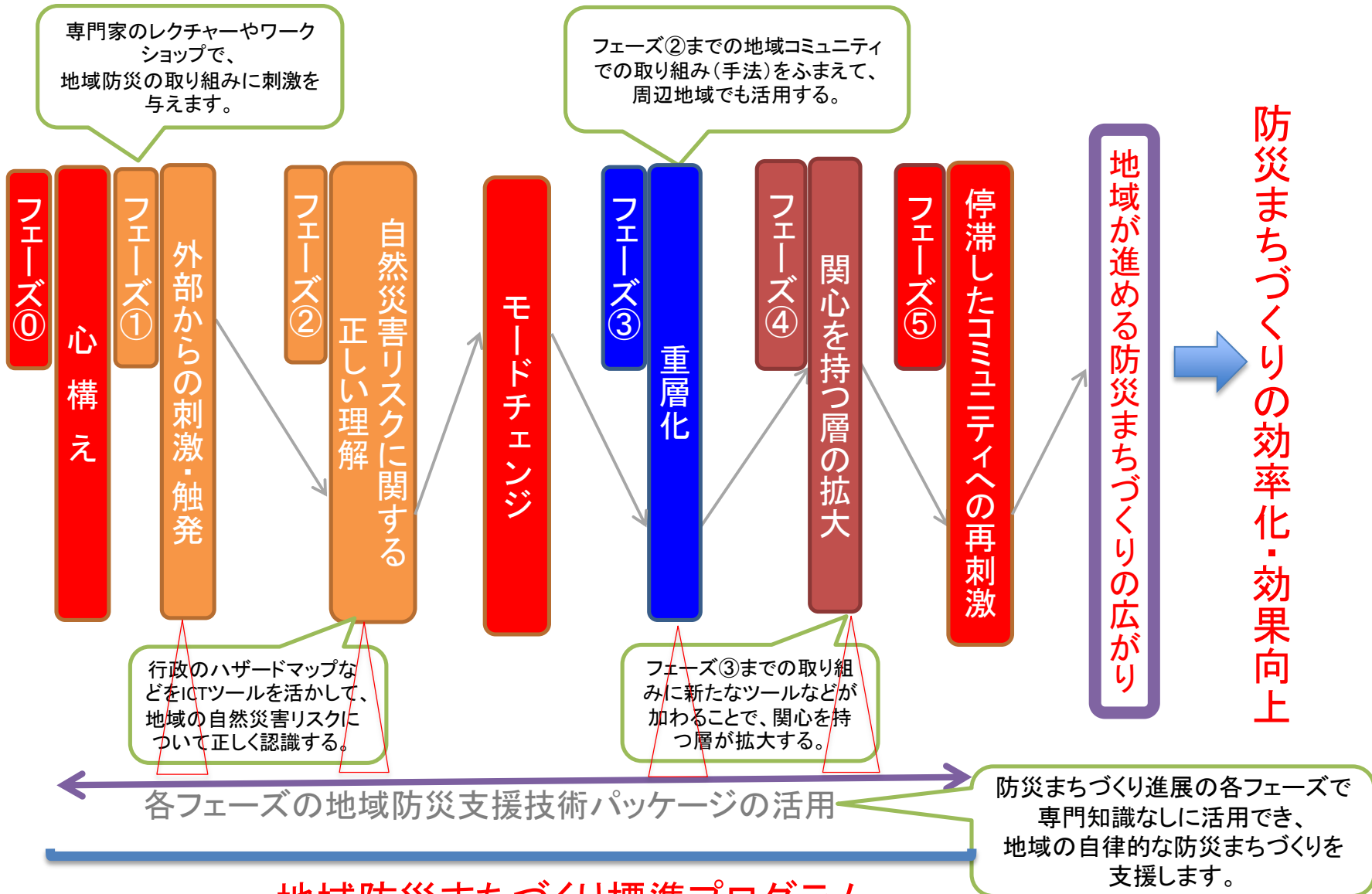


そこで、「地域防災支援技術パッケージ」の活用



地域防災支援技術パッケージは、防災まちづくりの各フェーズにおける方法論とツールを組み合わせたもので、地域が自律的に進める総合的な防災まちづくりを支援するものです。

防災まちづくり進展の各フェーズにおける「地域防災支援技術パッケージ」の活用



地域防災まちづくり標準プログラム

フェーズ① 外部からの刺激・触発

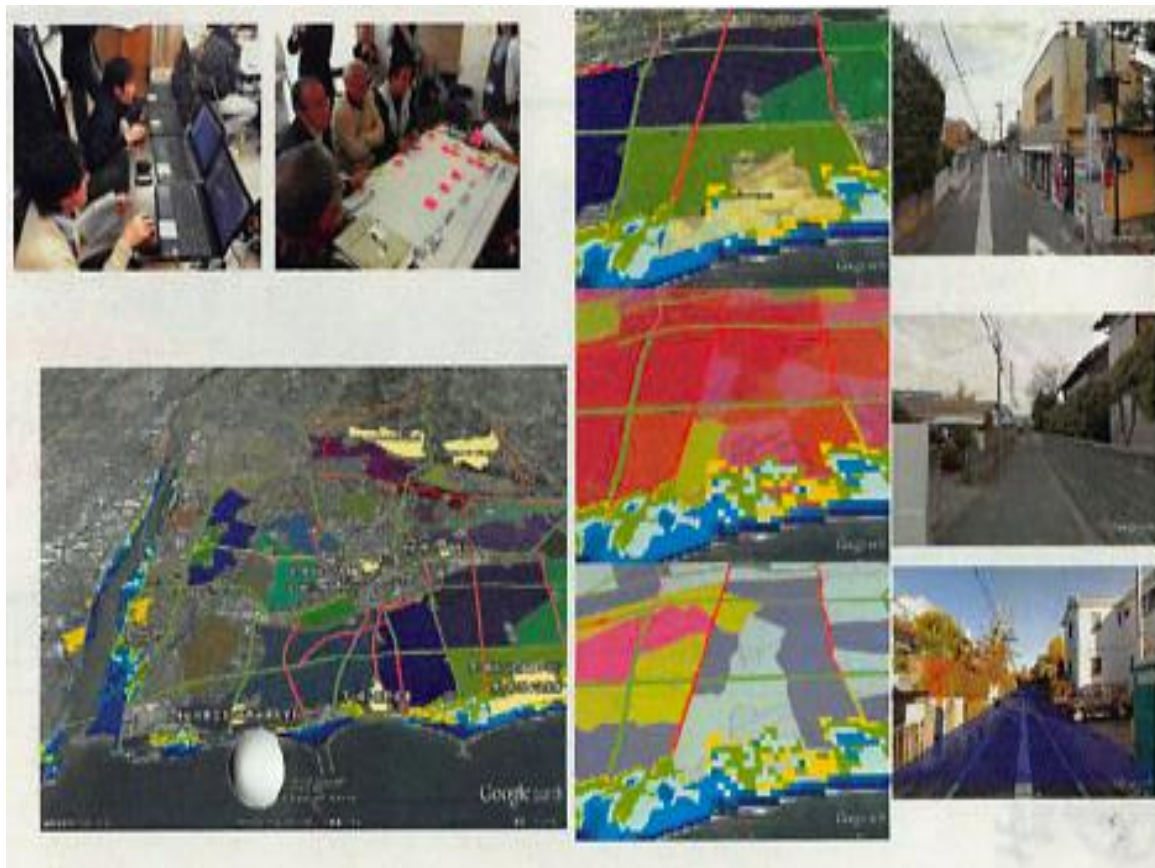


「科学技術と社会をつなぐツール」群 (ICTツール) のひとつく天サイまなぶくん>
(浸水深表示) の活用



専門家のレクチャーを受けたうえで、住民がツールを使うことで地域が抱える自然災害ハザードについて刺激され、地域課題についてのリアリティをともなった理解がすすむ。

フェーズ② 自然災害リスクに関する正しい理解



Google Earthを用いたリスク認識支援ツール活用
＜防災都市づくりワークショップで使用されたもの＞

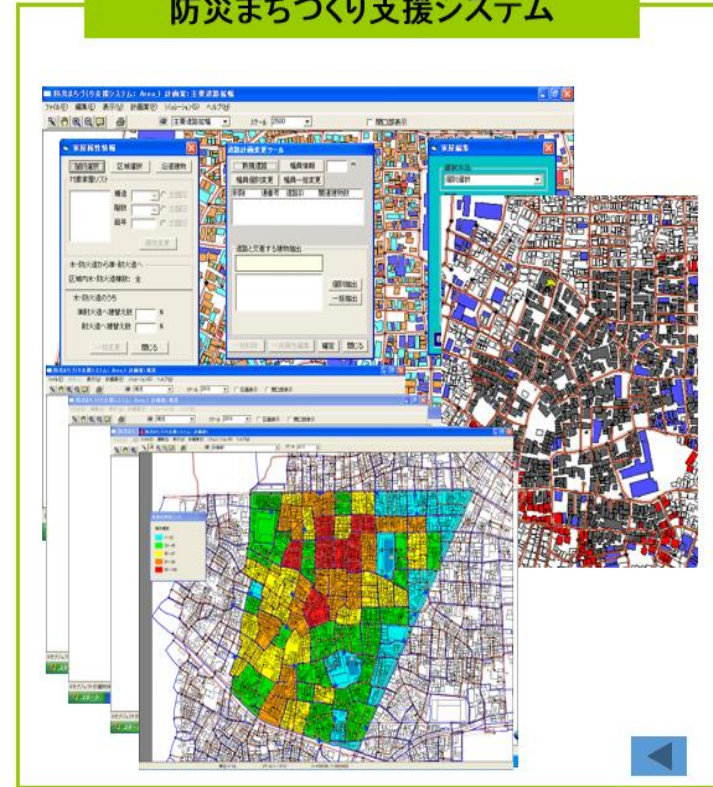


行政が持つ公開可能な情報を収集し、ツールを使って俯瞰的に地域状況を把握

フェーズ③ 重層化 — 地域組織レベルでの広がり



防災まちづくり支援システム



自分の街の延焼シュミレーションをみて、
個々の組織で防災の取り組みが必要な
ことを認識

＜防災まちづくり支援システム＞の
延焼シュミレーション画面表示例



町内会、PTA、防災組織、NPOなど様々な組織が同じ方向に向かって前進する
ことで、防災まちづくりが拡大

フェーズ④ 関心を持つ層の拡大 一個人レベルでの広がり

Google Earthを用いたリスク認識支援ツールの活用で、
地域で**関心を持つ層が拡大**

■ **新しいツールが新しい人材を呼び込む**
ツールが使える中学生＋知識のある高齢者・大人

■ ツールを使うことを通じて、**フラットなコミュニケーションが成立**



学校教育のなかでの活用・展開
老若男女が集い、次世代への継承



Google Earthを用いたリスク認識支援ツールの活用

実施に当たって必要なもの

	データ	技術・ツール	人材・知識
必須	地域のハザードマップ・リスク評価・被害想定などの情報	スマホ・タブレット・PC等の基本的操作	行政、地域の方と忌憚なく話ができる地域住民およびファシリテーター経験者
有用	必須データ以外の地域のハザードマップ・リスク評価・被害想定などの情報	—	ワークショップの基本的手法